

昭和基地沖に停泊する南極観測船「しらせ」



森林研究部門 森林防災研究領域 チーム長 竹内 由香里

昭和基地は南極大陸ではなく、大陸氷縁から4 km程離れた東オングル島の露岩上にあります。夏の昭和基地は砂埃の舞う工事現場のようだと聞いてはいましたが、ヘリコプターで初めて降り立つて目にした光景は本当にそのとおりでした。しかし、顔も服も真っ黒になった（顔は日焼けして服は汚れて）前次（56次）越冬隊員が一人一人握手して満面の笑顔で出迎えて下さった光景は、殺風景を打ち消して余りあるほど感慨深いものでした。56次越冬隊26名にとっては10ヶ月ぶりの「外界の人」との再会でした。

前号で紹介したように、私は主に大陸沿岸での観測を担当していたので、観測点から昭和基地に戻って調査中に出たゴミを処理し、次に出かけるための観測機材や食料などの準備をして、また出かけるという日々でした。昭和基地で過ごしたのは南極滞在期間の約半分でしたが、昭和基地において他の隊員らの風力発電2号機の建設作業（写真5）や潮位観測（写真7）を手伝う機会もあり、得難い体験と達成感を共有することができました。



写真2 夏期隊員宿舎での食事の準備（2015年12月25日）



写真1 56次(左)と57次(右)越冬隊の越冬交代式(2016年2月1日)
この日から1年間、57次越冬隊が昭和基地の維持と観測を担う。



写真3 昭和基地主要部（写真4の足場から撮影）。右遠方に「しらせ」、その向こうに南極大陸が見える。（2016年1月23日）



写真5 風力発電機のブレード（風を受ける羽根）を取り付ける作業（2016年1月23日）



写真4 建設中の風力発電2号機と57次隊が運び込んだ35 t ラフタークレーン（2016年1月24日）



写真7 昭和基地・西の浦験潮所における潮位観測（海上保安庁担当）（2016年1月27日21時）



写真6 高層気象観測用ラジオゾンデの放球
1日2回、センサーと発信装置を付けた気球を世界中の観測点で同時刻に放つ（気象庁担当）（2016年1月23日14時30分）。